

2020年4月20日

2020年4～6月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

新型コロナウイルスの感染拡大で県内産業景気は急降下

静岡経済研究所（理事長 一杉逸朗）では、3月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

現況

○年初から自動車販売などで前年の消費増税の反動減が続くなど低調に推移していたが、2月以降、中国を発端とする新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、多くの業種で急降下した。

今後の見通し

○世界的に新型コロナの感染拡大が続く中、国内・海外経済ともに極めて不透明な状況が続くと予想される。新型コロナの感染終息が見通せない中、県内産業景気は、製造業・非製造業問わず、多くの業種で大きなダメージを負うことが懸念される。

○なお、業種ごとの4～6月期の業界景気見通しは、主要20業種のうち「食品・飲料」が『やや上昇』、「家庭紙」、「情報サービス」など9業種が『やや下降』、「自動車部品」「二輪車部品」など3業種が『下降』、残る7業種が『横ばい』。

『好調』『順調』はなく、『普通』が6業種、『低調』が6業種、『不調』が8業種となる見通し。全業種の平均階級値は「1.90」で、東日本大震災発生直後の2013年4～6月期の水準まで落ち込む見込み。

業種	業界景気	
	現況 (1～3月)	見通し (4～6月)
製茶	☁ → ☁	☁
食品・飲料	☁ ↗ ⓪	⓪
家庭紙	⓪ ↘ ⓪	⓪
産業用紙	☁ → ☁	☁
工作機械	☔ ↘ ☔	☔
民生用電器部品	⓪ → ⓪	⓪
自動車部品	☁ ↘ ☔	☔
二輪車部品	☁ ↘ ☔	☔
建設	⓪ → ⓪	⓪
住宅	☁ → ☁	☁
大型小売店	☁ → ☁	☁
食品スーパー	⓪ → ⓪	⓪
自動車販売	☁ ↘ ☔	☔
家電量販店	☁ ↘ ☔	☔
運輸・倉庫	⓪ ↘ ☁	☁
情報サービス	⓪ ↘ ⓪	⓪
外食	☔ ↘ ☔	☔
観光・レジャー	☔ ↘ ☔	☔
リース	☁ ↘ ☔	☔
人材派遣	⓪ ↘ ☁	☁

※本件のお問合せ先 担当（大石 彰男）

新型コロナウイルスの感染拡大で県内産業景気は急降下

県内の産業景気は、年初から自動車販売などで前年の消費増税の反動減が続くなど低調に推移していたが、2月以降、中国を発端とする新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、多くの業種で急降下した。とくに、外出自粛ムードの強まりなどから、外食や観光・レジャー産業で、売上が大幅に落ち込んだ。

今後の見通しについては、世界的に新型コロナの感染拡大が続く中、国内・海外経済ともに極めて不透明な状況が続くことが予想される。経済活動が正常化するには、新型コロナの感染終息が必須となるが、現状、その道筋が見通せない中、県内産業景気は、製造業・非製造業問わず、多くの業種で大きなダメージを負うことが懸念される。

(1) 業界景気の現況について (2020年1～3月期)

県内産業（主要20業種）の現況（2020年1～3月期）は、『好調』業種はなく、『順調』が「家庭紙」「情報サービス」の2業種、『普通』が「民生用電器部品」「建設」「食品スーパー」「運輸・倉庫」「人材派遣」の5業種、『低調』が「製茶」「食品・飲料」「産業用紙」「自動車部品」「二輪車部品」「住宅」「大型小売店」「自動車販売」「家電量販店」「リース」の10業種で、『不調』は「工作機械」「外食」「観光・レジャー」の3業種となった。

(2) 業界景気の見通しについて (2020年4～6月期)

2020年4～6月期の景気見通しは、全20業種のうち、『好調』『順調』とする業種はなく、外出自粛による巣ごもり消費が期待される「食品・飲料」が『低調』から『普通』に唯一『やや上昇』する見込み。一方、『順調』から『普通』へ『やや下降』するのは、トイレ紙やティッシュの買い占めによる反動減が見込まれる「家庭紙」、経済活動自粛で新規案件の進捗に遅れが出ている「情報サービス」の2業種。

『普通』のまま『横ばい』が続くのは、前年が高水準だった「民生用電器部品」、公共工事が堅調な「建設」、外食控えから冷凍食品などが好調な「食品スーパー」の3業種。

『普通』から『低調』へ『やや下降』するのが、新型コロナの影響で輸出入関連の荷動きが停滞するとみられる「運輸・倉庫」、派遣需要がさらに弱まるとみられる「人材派遣」の2業種。

『低調』のまま『横ばい』が続くのは、需要の低迷が続く「製茶」、用途別で明暗が分かれる「産業用紙」、消費増税の影響が続く上に外出自粛で展示場の来場者が減少している「住宅」、百貨店を中心に外出控えの影響が大きい「大型小売店」の4業種。

『低調』から『不調』へ『やや下降』するのが、外出自粛で集客が難しい「自動車販売」、東京五輪の延期で4Kテレビの買い替え需要が鈍化している「家電量販店」の2業種。

『低調』から『不調』に『大きく下降』するのが、世界的な需要急減で生産調整に入る「自動車部品」と「二輪車部品」、設備投資マインドが急減速している「リース」の3業種。

そして、『不調』のまま『さらに下降』となるのが、内・外需ともに設備投資案件の先送り感が急速に強まっている「工作機械」、外出控えにより外食機会が大幅に減っている「外食」、自粛ムードが強まる中で春の大型イベントの中止が多数発表されている「観光・レジャー」の3業種となった。

静岡県内主要産業四半期見通し調査 『現況』と『見通し』推移

年次		2017年			2018年				2019年				2020年
四半期		II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I (今回調査)
対象月(○は調査月)		4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③
業界景気の『現況』	好調 ☀	0	0	1	1	1	1	0	0	2	0	0	0
	順調 ○	3	3	2	2	2	3	4	4	3	5	3	2
	普通 ⊖	8	9	8	10	10	10	10	10	11	8	8	5
	低調 ☁	8	8	9	7	7	6	6	6	4	7	8	10
	不調 ☂	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	全業種の平均階級値	2.65	2.75	2.75	2.85	2.85	2.95	2.90	2.90	3.15	2.90	2.65	2.30
好調：5													
順調：4													
普通：3													
低調：2													
不調：1													
業界景気の『見通し』	上昇 ↗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	やや上昇 ↗	1	0	2	1	1	1	1	1	0	0	0	1
	横ばい →	19	20	18	18	19	18	19	18	19	16	18	7
	やや下降 ↘	0	0	0	1	0	1	0	1	1	3	2	9
	下降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(3月調査であれば1~3月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(3月調査であれば4~6月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。
調査時点…2020年3月上旬
回答企業…県内主要20業種(223社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、20業種の平均値。

2020年4～6月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気		静岡県内主要産業の見通し									
	現況 (1～3月)	見通し (4～6月)	生産量 (対比伸び率 前1～3月期)	売上高 (対比伸び率 前1～3月期)	生産量 (伸伸び率 前年同期比)	売上高 (伸伸び率 前年同期比)	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格の動向 (前1～3月期対比)	製品価格の動向 (前1～3月期対比)	受注残 (ヵ月)
製茶	☁ → ☁	☁	—	—	—	→	○	供給超過	適正	↘	↘	—
食品・飲料	☁ ↗ ○	○	↗	↗	↗	↗	◎	均衡	適正	→	→	0.5～1.0
家庭紙	○ ↘ ○	○	↘	↘	↘	↘	◎	均衡	適正	→	→	0.1～1.0
産業用紙	☁ → ☁	☁	→	→	↘	↘	○	均衡	適正	→	→	0.1～1.0
工作機械	☂ ↘ ☂	☂	☒	☒	☒	☒	◇	供給超過	過多	→	↘	0.5～5.5
民生用電器部品	○ → ○	○	↗	↗	↘	↘	○	均衡	適正	→	→	1.0～3.0
自動車部品	☁ ↘ ☂	☂	☒	☒	☒	☒	◇	供給超過	適正	→	→	0.1～2.0
二輪車部品	☁ ↘ ☂	☂	☒	☒	☒	☒	◇	供給超過	適正	→	→	0.2～1.0
建設	○ → ○	○	—	→	—	→	◎	均衡	適正	→	→	2.0～10.0
住宅	☁ → ☁	☁	—	↘	—	↘	◇	供給超過	適正	→	→	1.0～6.0
大型小売店	☁ → ☁	☁	—	→	—	↘	—	供給超過	適正	→	→	—
食品スーパー	○ → ○	○	—	→	—	↗	—	均衡	適正	→	→	—
自動車販売	☁ ↘ ☂	☂	—	↘	—	↘	—	供給超過	適正	→	→	—
家電量販店	☁ ↘ ☂	☂	—	↘	—	☒	—	供給超過	適正	→	→	—
運輸・倉庫	○ ↘ ☁	☁	—	→	—	↘	○	均衡	—	→	→	—
情報サービス	○ ↘ ○	○	—	→	—	↘	◎	均衡	—	→	→	—
外食	☂ ↘ ☂	☂	—	↘	—	☒	—	供給超過	—	→	→	—
観光・レジャー	☂ ↘ ☂	☂	—	↘	—	☒	—	供給超過	—	→	→	—
リース	☁ ↘ ☂	☂	—	☒	—	☒	—	—	—	—	—	—
人材派遣	○ ↘ ☁	☁	—	→	—	↘	○	均衡	—	↗	↗	—

表の見方と注意

業界景気の現況 見通し	業界景気の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操業度	需給バランス	製品在庫水準
好調 ☀	上昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ☒	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需要超過	過少
普通 ⊕	横ばい →	横ばい (+2～△2%) →	79～70% ◇	均衡	適正
低調 ☁	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ⊙	供給超過	過多
不調 ☂	下降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ☒	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多

主要業種の現況と4～6月期の景況見通し

業種	業界天気	免疫効果アピールで緑茶需要の掘り起こしを図る
製茶	☁ →	(現況)・製茶問屋の売上高は低迷が続いた。冷え込みで消費が伸びる緑茶にとって、暖冬が逆風となった。2月後半からは新型コロナウイルスの感染拡大で、予定していた各種イベントが中止され、消費者へのアピール機会も失われた。
		(見通し)・製茶問屋の売上高は厳しい状況が続く見込み。需要が低迷する中で、新茶シーズンの仕入れにも慎重姿勢の茶商が目立つ。一方、女性週刊誌で緑茶が「免疫力を上げる飲み物の第1位」と紹介されるなど追い風もあり、健康効果をアピールすることで需要を掘り起こす動きが注目される。

業種	業界天気	“巣ごもり消費”が伸長し、売上高は前年比増を見込む
食品・飲料	☁ → ◐	(現況)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年を下回った模様。消費増税による消費マインドの冷え込みや、前年好調だったサバ缶需要が後退したことが減収につながった。一方、飲料缶類はブランドオーナーからの受注が堅調で前年を上回った。
		(見通し)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年を上回る見通し。新型コロナウイルスの感染防止に向けた外出自粛により“巣ごもり消費”が伸長し、需要は上向くと予想される。飲料缶類は、同様の需要に加え夏場の最盛期に向けブランドオーナーからの底堅い受注が期待され、生産量は前年を上回る模様。

業種	業界天気	新型コロナ特需で受注増加するが、5月以降は反動減発生か
家庭紙	○ → ◐	(現況)・1～3月の家庭紙の生産量は前年を+5～6%上回った。再生トイレ紙・ティッシュは、消費増税後の反動減により在庫が増加傾向にあったが、2月下旬以降、店頭で新型コロナ絡みの買い占めが発生し、受注が急増した。
		(見通し)・家庭紙の生産量は前年を下回って推移する見込み。再生トイレ紙・ティッシュともに、新型コロナ絡みの買い占めで家庭内の在庫が積み上がっており、5月以降、反動減が発生する可能性あり。再生トイレ紙は、各種店舗や施設の営業自粛、外国人旅行客の減少による業務用需要の減少が予想される。

業種	業界天気	主力の加工食品向けは増加するが、用途により明暗分かれる
産業用紙	☁ → ☁	(現況)・産業用紙の生産量は前年をやや下回った。段ボール原紙は、消費増税後の反動減で低調に推移する中、2月末以降、巣ごもり消費で加工食品向けが増加。白板紙は、増税後の反動減とインバウンド需要の減少で、生産量は前年を下回った。
		(見通し)・産業用紙の生産量は前年を割り込むとみられる。段ボール原紙は、新型コロナウイルスの影響で、加工食品向けや通販が増加する一方、経済活動縮小に伴い電気機器用などは減少する見込み。白板紙は、インバウンドの減少で、贈答用食品や医薬品・化粧品向けが動かず、前年を下回る見込み。

☀ 好調 ○ 順調 ◐ 普通 ☁ 低調 ☔ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	内外需とも前年実績を大幅に下回る見込み
工作機械		(現況)・全国および県内の受注額は、前年を▲40%程度下回って推移した模様。米中貿易摩擦の影響からもともと受注が弱かった上に、新型コロナウイルスの感染拡大で企業の設備投資に対する慎重姿勢がさらに強まったことが響いた。
	→ 	(見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年実績を大きく下回る見通し。5G関連案件が好材料であるものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、内・外需とも企業の設備投資案件の先送り感が急速に強まっており、どの程度の落込みとなるか見通せない状況。

業種	業界天気	高水準だった前年の反動で、出荷台数は前年をやや下回る
民生用電器部品		(現況)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、消費増税後の反動減や、暖冬で北日本での販売が振るわなかったことから、前年を▲10%程度下回った。冷蔵庫や洗濯機の出荷台数も、増税後の需要低迷で前年を▲10～15%下回って推移した。
	→ 	(見通し)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、消費増税前の駆け込み需要で過去最高水準だった前年を、▲10%前後割り込むとみられる。業務用エアコンは、小中学校向け特需の一巡で、前年をやや下回る見込み。冷蔵庫や洗濯機も、増税後の需要低迷で前年をやや下回る見通し。

業種	業界天気	新型コロナウイルスの影響で世界的に需要が急減
自動車部品		(現況)・全国の自動車生産台数は、前年比▲1～2割下回った模様。国内販売は消費増税後の反動減が続き、新型コロナウイルスの影響で輸出も減少した。県内部品メーカーの生産量も、前年実績を割り込んだ模様。
	→ 	(見通し)・全国の自動車生産台数は、前年を▲3割以上下回って推移する見通し。新型コロナウイルスの影響で世界的に自動車販売が減少しており、多くの完成車メーカーで生産調整が実施される予定。これに伴い、県内部品メーカーの生産量も、前年を大きく下回って推移する見通し。

業種	業界天気	先進国市場の急激な縮小で大打撃、受注量は半減の懸念
二輪車部品		(現況)・全国の完成車生産台数は、前年実績を割り込む模様。3月に入り中国からの部品調達が滞って県内生産が一部停止、欧州や北米の販売停止が追い打ちをかけた。県内部品メーカーの受注量も、前年水準を下回ったとみられる。
	→ 	(見通し)・全国の完成車生産台数は急減する見通し。海外・国内とも需要回復は見込み難しく、4～5月は前年比で半減するとの不安が広がる。感染拡大局面がさらに長引けば、4～6月通期で前年比▲7～8割減にまで達する懸念がある。県内二輪車部品の受注量も、前年の半分に満たない水準で推移しそう。

☀ 好調 ○ 順調 ◎ 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	県・市町がけん引し公共は堅調、民間は景気停滞で前年割れ
建設	○	(現況)・県内の公共工事契約額は、前年をやや上回った模様。大型下水道工事のあった市町関係、病院改修工事のあった県関係が前年を上回った。国関係は前年並み。民間の工事費予定額は、景気停滞を反映して前年をやや下回った模様。
	→	(見通し)・県内の公共工事契約額は、前年並みで推移する見通し。災害復旧工事やインフラの老朽化対策工事をベースに、年度初めから契約が進むとみられる。一方、新型コロナウイルスの影響で企業活動の先行きが不透明な中、設備投資意欲は減退し、民間の工事費予定額は前年を下回る見通し。

業種	業界天気	持家は増税の影響続き、外出控えて展示場への来場も減少
住宅	☁	(現況)・県内の持家新設着工戸数は、消費増税に伴う駆け込み需要の反動減が続き、前年を下回った模様。新型コロナウイルスの影響で、モデルハウスや住宅展示場への来場者数も減少した。貸家も、投資家のマインド回復には至らず、前年割れ。
	→	(見通し)・県内の持家新設着工戸数は、前年を下回る見通し。外出控えによる住宅購入検討の先送りや、所得環境の悪化による購入意欲の減退が顕在化しそう。貸家は、不動産投資への慎重な姿勢は変わらず、回復は難しい。中国からの住設機器の調達に遅れが生じており、工事停止や完了遅延が懸念される。

業種	業界天気	来客数の落込みで、百貨店の販売額は前年を大きく下回る
大型小売店	☁	(現況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回った模様。百貨店の販売額は、新型コロナの影響で営業時間が短縮されるなど前年を▲2～3割下回った。総合スーパーは、売上の約7割を占める飲食料品が堅調で前年をやや上回った。
	→	(見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回る見通し。百貨店は、新型コロナ感染拡大に伴う消費者の外出控えが続けば、大幅な落込みが避けられない。一方、総合スーパーは、主力の飲食料品に加えて、マスクや石鹼、ハンドソープなどの販売増加が見込まれ、前年をやや上回る見通し。

業種	業界天気	内食需要が増加し、冷凍食品などの販売額が伸長
食品スーパー	○	(現況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや上回って推移した模様。新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、外食を控えて自宅で食事する人が増加し、弁当や総菜、冷凍食品、レトルト食品などの販売額が大きく伸びた。
	→	(見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや上回る見通し。感染予防のため、外食を控える人が増えれば、冷凍食品やレトルト食品などを中心に販売額の増加が見込まれる。インターネットで注文した商品が配送される「ネットスーパー」の利用者も、増加するとみられる。

☀ 好調 ○ 順調 ⊕ 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	消費者の慎重姿勢強く、前年を下回って推移
自動車販売	  	<p>(現況)・県内の新車販売台数は、前年を▲9.8%下回った。年初から消費増税の影響で前年比マイナス基調にある中、新型コロナの感染拡大で2月以降、来店客が激減。登録車は前年比▲13.5%の二桁マイナス、軽自動車も同▲4.8%と前年割れ。</p> <p>(見通し)・県内の新車販売台数は、4月からの新生活キャンペーン企画等で需要を盛り上げることも難しく、来店客の増加や購入マインドの向上につながらないとみられ、登録車、軽自動車とも前年を下回って推移すると見込まれる。部品不足による完成車生産の停滞も懸念材料。</p>

業種	業界天気	東京五輪の延期で、4Kテレビへの買い替え需要が鈍化
家電量販店	  	<p>(現況)・県内の家電販売額は、前年を▲5%程度下回った模様。パソコンは、1月のWindows7のサポート終了に伴う買い替え需要で押し上げられたものの、冷蔵庫や洗濯機、掃除機などが消費増税後の需要低迷で前年をやや下回った。</p> <p>(見通し)・県内の家電販売額は、前年を下回る見通し。新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、ウイルス除去機能を備えた空気清浄機が伸長する見込み。一方、東京五輪の延期で4Kテレビへの買い替え需要は大幅に鈍化するとみられ、冷蔵庫や洗濯機も増税後の反動減が続き、低調に推移しそう。</p>

業種	業界天気	トラック輸送量は、前年割れとなる見通し
運輸・倉庫	  	<p>(現況)・県内のトラック輸送量は、食料品や紙・パルプなどの荷動きは堅調に推移したが、新型コロナウイルスの影響で落ち込み、全体では前年をやや下回った。普通倉庫の入出庫高は鉄鋼や電気機械の荷動きが鈍く、前年をやや下回った模様。</p> <p>(見通し)・県内のトラック輸送量は、新型コロナウイルスの影響により、総じて前年割れとなる見通し。食料品などの生活必需品は堅調に推移すると予想されるが、輸出入に関わる荷動きは停滞するとみられる。倉庫の入出庫高も、前年をやや下回って推移すると見込まれる。</p>

業種	業界天気	経済活動自粛に伴い、新規案件の進捗に遅れ
情報サービス	  	<p>(現況)・全国の売上高は前年をやや上回って推移した。すでに確定している案件については、主力のソフトウェア開発を中心に堅調に推移した。首都圏からの受託も堅調だったが、新型コロナウイルスの影響で、一部でテレワークの要請が出ている。</p> <p>(見通し)・全国の売上高は前年並みで推移する見通し。大型案件の多くは半年ほど前に受注が確定しており、既存の案件は堅調に推移する見通し。一方、首都圏を中心に出張や面談の自粛で新規案件の進捗に遅れが出始めており、今後の売上の下振れ要因となる可能性あり。</p>

☀ 好調 ○ 順調 ⊕ 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	新型コロナウイルスの終息時期見えず、前年比大幅マイナス
外 食		(現況)・県内主要外食店の売上高は、前年をやや下回った。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて2月、3月と自宅で食事をする人が増え、ファストフード店の持ち帰り需要が伸長したが、座って食事をする飲食店は軒並み来店者数が減少した。
	→ 	(見通し)・県内主要外食店の売上高は、前年を大きく下回る見通し。新型コロナウイルスの終息時期が見えず、当面、3月の状態が続く模様。自粛疲れで外出することはあっても緊急事態宣言が全国に出されており外出機会が大幅に減るとみられ、臨時閉店する店舗も出る模様。

業種	業界天気	春の大型イベント中止で、大幅マイナスは必至
観光・レジャー		(現況)・県内主要旅館の総売上高は、前年を大きく下回った模様。国内需要は、新型コロナウイルスの影響で2月初旬から落ち込み始め、政府のイベント自粛要請をきっかけに、一気に宿泊旅行に出掛けにくい状況になった。
	→ 	(見通し)・県内主要旅館の売上高は、前年を大きく下回る見通し。国内需要は、春の大型イベントの中止が多数発表されており、日帰り需要、宿泊需要とも落ち込みが避けられない。この状況ではキャンセル分を補う広告宣伝も打ち出しにくく、多くの施設が苦戦を強いられる模様。

業種	業界天気	企業の設備投資マインド後退で、リース需要は前年を大きく下回る
リ ー ス		(現況)・県内のリース件数・契約高は、前年実績をやや下回って推移した模様。主力の情報通信機器はパソコンの更新需要が一段落したことにより伸び悩むとともに、機械関連では企業の設備投資マインドが弱含みで推移したことが影響した。
	→ 	(見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年を大きく下回る見通し。企業の設備投資に対する慎重姿勢が急速に強まっており、製造業・非製造業向けともに落ち込み幅が見通せない状況。中国などにおける生産停止の影響による納品遅延に対する懸念も広がっている。

業種	業界天気	製造分野では、派遣需要がさらに弱まる
人 材 派 遣		(現況)・県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年比微増で推移した模様。製造分野では派遣需要が弱まっているが、事務や医療、ITなどの分野の需要は堅調。とくに医療関連では、派遣スタッフの供給が追いつかない状況が続いた。
	→ 	(見通し)・県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年水準をやや下回る模様。ITなどの分野では、現時点においては一定の需要が見込まれているが、製造分野では、新型コロナウイルスの影響を受け、派遣需要はさらに弱まるとみられる。今後、影響拡大により他産業でも需要が減少する懸念がある。

☀ 好調 ○ 順調 ⊕ 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

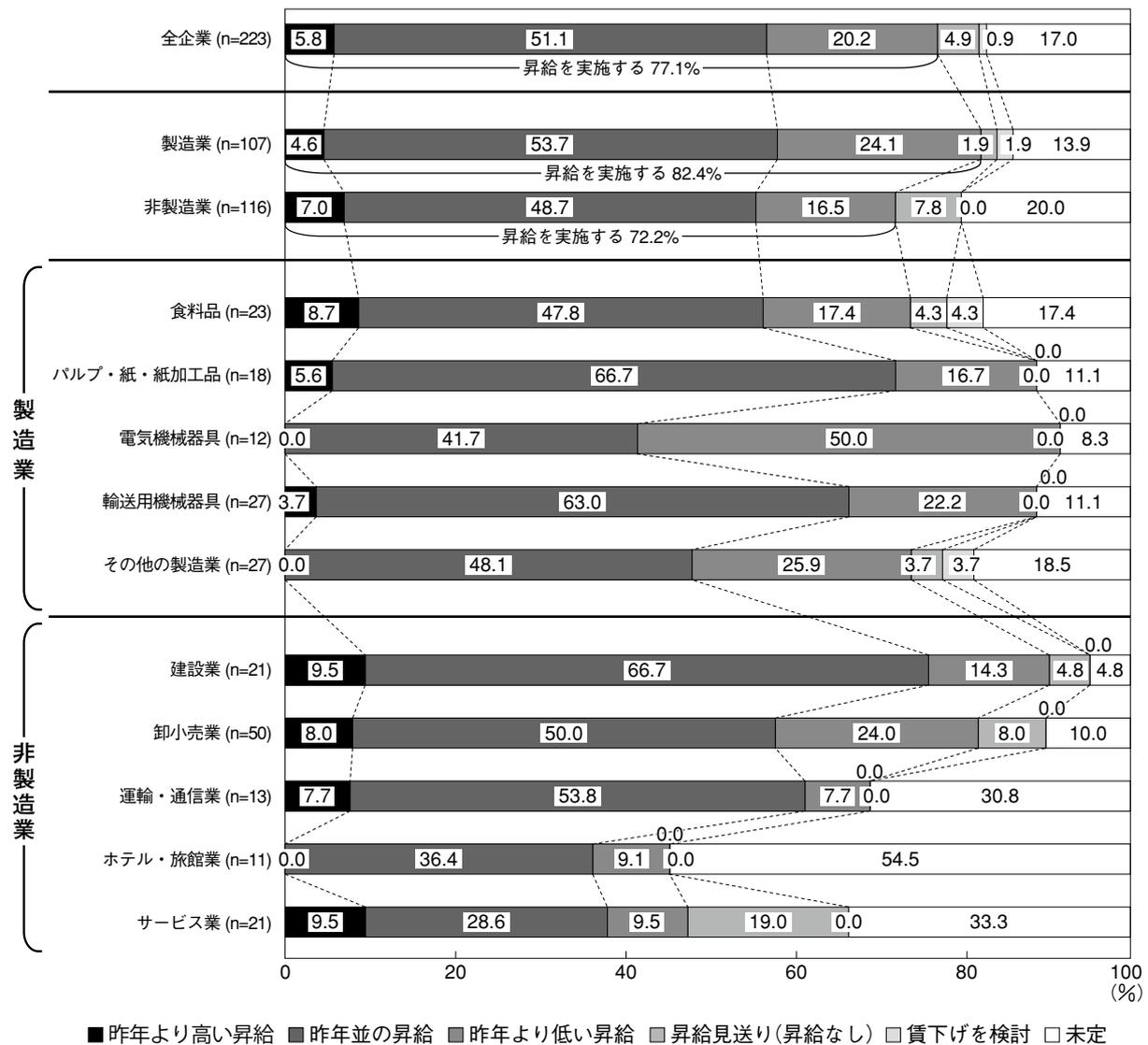
ウォッチング

昇給を実施する企業は前年比▲10.7ポイント低下、非製造業の落込みが目立つ

県内企業に、今年度の昇給（賃上げ）に対する方針を聞いたところ、昇給を実施する（「昨年より高い昇給」「昨年並みの昇給」「昨年より低い昇給」の合計）と答えた企業は77.1%で、前回調査（87.8%）から▲10.7ポイント低下した（図表）。

業種別では、昇給実施企業の割合は、製造業で82.4%（前回比▲7.4ポイント）、非製造業で72.2%（同▲13.5ポイント）となり、非製造業で落込みが際立っている。製造業では、「パルプ・紙・紙加工品」や「輸送用機械器具」で昨年並み以上の昇給を実施する企業が多い。一方、非製造業では、「建設業」（90.5%）で昇給を実施する企業が目立ったが、「サービス業」（47.6%）や「ホテル・旅館業」（45.5%）は5割以下にとどまった。

図表 今年度の昇給（賃上げ）の見通し



調査要領：調査時点2020年3月、調査対象企業614社、回答社数223社、有効回答率36.3%